2018 4.9 vol.839

JA全農ウィークリー WEEKLY

3面

酪農部が日本コカ・コーラ㈱の5by20プロジェクトと連携
栃木県の高校で「酪農の夢」出張授業

2面

JAグループ首脳と経団連が懇談

酪農部が日本コカ・コーラ㈱の5by20プロジェクトと連携し、栃木県立宇都宮白楊高校で「酪農の夢」出張授業（3面）

経団連と懇談するJAグループ首脳㊧（2面）

水泳教室で子どもたちを指導するシドニーオリンピック元競泳日本代表の萩原智子さん（8面）

2 ニュース＆トピックス（園芸部、総合企画部）
3 ニュース＆トピックス（酪農部、JA全農インターナショナル㈱）
4 ニュース＆トピックス（生産資材部、高知県本部）
5 インフォメーション（耕種総合対策部）
6 インフォメーション（畜産生産部）
7 青果情勢（園芸部）
8 コミュニケーション（広報部、JAタウン）

「事業承継ブック集落営農版」が完成しました。詳細は5面に掲載

News!

園芸事業で業務提携契約を締結

産地づくりや物流網の共同利用などで競争力強化

園芸部

全農は園芸事業に関し、デリカフーズホールディングス株式会社、カネマサ流通グループ（金正青果株式会社・株式会社マルマサフード）、エム・ヴイ・エム商事株式会社と業務提携契約を締結しました。

デリカフーズホールディングス㈱は、業務加工用野菜卸の国内最大手で、外食を中心に多くの販路を有し、かつ商品開発力や自社物流網が充実しています。

カネマサ流通グループは、青果仲卸業ならびにカット野菜の製造・販売事業を展開し、大手コンビニ、外食チェーン、量販店など多くの販路を有しています。

エム・ヴイ・エム商事㈱は、青果物卸売業ならびにカットフルーツの製造・販売を展開しており、カットリンゴの製造・販売では国内最大手です。

各社とはこれまでも全農および全農グループ会社と重要な取引関係にありましたが、業務提携により更に関係を強化し、国内契約産地づくりや、インフラ・物流網の共同利用、共同商品開発、販路拡大など、生産から販売までの一貫した取り組みを積極的に展開していきます。加えて、双方の集荷・加工販売・物流機能を活用した合理的・効率的な事業運営の仕組みを構築し、より競争力のある事業展開を目指します。

業務提携の相手先の概要（平成29年3月31日現在）

名称	デリカフーズホールディングス㈱	カネマサ流通グループ		エム・ヴイ・エム商事㈱
		金正青果㈱	㈱マルマサフード	
本社所在地	東京都足立区	大阪市東住吉区	大阪市東住吉区	神戸市中央区
事業内容	外食チェーン等向け業務加工用野菜卸売業	青果仲卸業	大手コンビニ・外食チェーン向け、青果物のカット加工、卸売業	青果物の卸売業、カットフルーツ製造・販売
売上高	346億円（グループ連結）	155億円	291億円	93億円（子会社・関連会社含む）
資本金	13億7700万円	8050万円	4000万円	4300万円
設立年月	平成15年4月	昭和39年7月	昭和51年9月	昭和50年8月

News!

農作業効率化や輸出拡大などで引き続き連携強化

ＪＡグループ首脳が経団連と懇談

総合企画部

ＪＡグループと経団連は、活力ある農業・地域づくりの実現に向けて「経済界と農業界の連携強化ワーキンググループ」を設置し、２０１３年から事業連携に取り組んでいます。

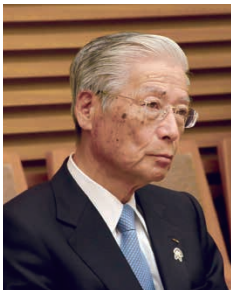
経団連とＪＡグループ首脳の懇談会が３月16日、東京・大手町で開かれ、経団連の榊原定征会長、中西宏明副会長、全中の中家徹会長、全農の長澤豊会長らが出席しました。

全農からは、経済界との連携に関する最近の取り組みとして、三菱商事との農薬合弁会社設立、クラウド型環境制御システムの共同開発など４事例を報告しました。

その後の意見交換で、長澤会長は「物流におけるアマゾンの台頭のように、今後は新たな仕組みづくりが重要。そのためにはＩＣＴの積極的活用が不可欠」と述べました。

農作業の省力化・効率化や輸出拡大のためには、経済界の技術やノウハウの活用が重要であり、引き続き連携を強化していくことを確認し、懇談会は終了しました。

経団連と懇談するJAグループ首脳㊧



最近の取り組みなどを報告した長澤会長

榊原経団連会長

News!

宇都宮白楊高校で10校目の「酪農の夢」出張授業

2015年から日本コカ・コーラ㈱の5by20プロジェクトと連携

酪農部

酪農部は2015年から日本コカ・コーラ㈱の5by20プロジェクト（2020年までに世界で500万人の女性の活躍を支援する）と連携し、酪農の次世代育成を目的に高校生らを対象に出張授業を開いています。

節目となる10校目の「酪農の夢」出張授業を3月15日、宇都宮市の栃木県立宇都宮白楊高校で開き、1、2年生約120人が参加しました。

ジェラート店を経営する小山市の野口弘子さん（野口デーリィーファーム、アイス工房カウベル）とヨーグルト販売を営む北海道士幌町の北出愛さん（山岸牧場、さくら工房）の女性酪農家2人が、酪農に関わるまでの経歴、やりがいなどを講演し、全農は国内酪農の現状や全農の酪農事業などを説明しました。

高校生から積極的に質問があり、酪農の理解を深めるとともに、酪農を志す意欲が湧いたと話す生徒もおり、進路を考える上で有意義な時間を過ごしていただけました。

宇都宮白楊高校で酪農部の戸川職員が出張授業

生徒の質問に答える野口さん㊨と北出さん

News!

TOKIMEITĒのシェフが欧州代表で出場

京都で世界のシェフが競う日本料理コンペティション決勝大会

ＪＡ全農インターナショナル㈱

特定非営利活動法人日本料理アカデミー主催の「第6回日本料理コンペティション」決勝大会が3月11日、京都で開かれ、ロンドンの全農グループ直営レストラン「TOKIMEITĒ」の副料理長を務めるタマス・ナザイ氏が欧州代表として出場しました。

この日本料理コンペティションは、毎年テーマが決められ、料理の写真とレシピによる書類審査を通過したシェフは、国内外各地の地区予選で調理実技審査が行われ、勝ち上がった合計14人（海外3人、国内11人）だけが決勝大会で競うという厳しいもので、今回で6回目を迎えました。今年のテーマは「香りの創造」でした。

他の日本人シェフに混じり慣れない調理場での奮闘にも関わらず、残念ながらタマスシェフの入賞はなりませんでしたが、日本に来て多くの人と出会い本場の技術水準を知ったことで、ロンドンにおける日本食材発信へのさらなる貢献が期待できます。

日本料理コンペティション決勝大会に出場したシェフら。白衣の左から2人目がタマス・ナザイ氏

タマス・ナザイ氏が決勝大会で披露した料理

News!

JAオリジナル農機「PEACHシリーズ」が大好評

岡山県のJA-CATつやま店開店1周年祭で実演販売

生産資材部

岡山県津山市のJA-CATつやま店で3月22～25日、開店1周年祭が開かれ、全農×丸山製作所の共同企画商品である、JAオリジナル刈払機「草刈りPEACH」、バッテリー動噴「きりひめPEACH」の実演販売を行いました。

同店に「PEACHシリーズ」の販売コーナーを設置し、店舗入り口では全農女性職員が実演も行いました。

来店されたお客さまには、商品の特徴である「軽さ」や「使いやすさ」を実際に体感していただき、JA女性部や男性にも「負担だった草刈りや防除作業が楽になる」と大変好評でした。JA-CATつやま店の佐藤店長から「人目を引くデザインもアピールポイント。今後もJAオリジナル農機の販売を継続したい」とのコメントをいただきました。

これから草刈り・防除シーズンを迎えますが、軽くて・使いやすいJAオリジナル農機「PEACHシリーズ」をぜひお試しください。

全農女性職員から説明を受ける来場者

JA-CATつやま店に設けた「PEACHシリーズ」の販売コーナー

News!

高台に西部第5営農用石油中継基地を設置

防災対策の一環として移転

高知県本部

高知県黒潮町の高台に3月7日、防災対策の一環として営農用石油中継基地が完成しました。

2年前に同町からの要請を受け、JA高知はたと高知県本部は石油中継基地高台移転および緊急避難時の燃料供給体制の整備に向けた検討を始めました。協議を重ねた結果、浸水エリアにある大方石油中継基地と中村石油中継基地の2カ所を廃止し、同町の高台に集約・移転することが決まりました。4月以降の稼働を目指します。

新たな石油基地は海抜40㍍弱に位置し津波の影響を受けません。また、組合員への供給に加え緊急時の燃料供給体制の役割も担い、重油タンクが200㌔㍑・灯油と軽油が各100㌔㍑タンクで燃料を供給します。

組合員への安定的な燃料供給、組合員への所得最大化に寄与するため、高知県本部は「営農用石油配送マスタープラン」の実践に取り組んでおり、広域配送、配送ローリー削減や配送効率化を推進していきます。

高台に完成した西部第5営農用石油中継基地

「事業承継ブック集落営農版」が完成

全国の集落で世代を超えた話し合いを

［耕種総合対策部］

TACの訪問活動などを通じて30年度に配布する「事業承継ブック集落営農版」

全農では、事業承継を農業界の重要課題として捉え、「事業承継ブック～親子間の話し合いのきっかけに～（事業承継ブック親子版）」を発行し、全国の地域農業の担い手に出向くJA担当者「TAC」を中心に取り組んでいます。取り組みを進めていく中で、全国の現場から「親子版も良いが集落営農版をぜひ作成してほしい」という声が多数寄せられました。これに応えるため、「事業承継ブック～世代を超えた話し合いのきっかけに～（事業承継ブック集落営農版）」を発行しました。

事業承継ブック集落営農版は、事前に県域TAC部署を通じて冊子を配布し、TACの訪問活動などを通じて、集落営農組織での実践を進めていきます。

事業承継ブック集落営農版の特徴としては、事業承継ブック親子版で好評だった「気持ちを伝えるシート」など、世代を超えた話し合いに重きを置いて作成しています。また、集落営農の事業承継は農地に関連する内容が多いことから、全農が開発したZ-GIS（クラウド型営農管理システム）の活用も盛り込んでいます。さらに、TACパワーアップ大会表彰JAのJAふくおか八女の「法人運営10年プラン」、JAしまね「集落営農での事業承継ブック（親子版）の活用」などの全国の優良事例も盛り込んでいます。ぜひ、全国の集落営農組織での活用をお願いします。

【事業承継ブック（集落営農版）の概要】

○構　成：「知識編」「準備編」「実践編」の3部構成。

■知識編

- WORK1：統計から知ろう
- WORK2：地域の歴史から知ろう
- WORK3：集落営農組織のタイプから知ろう

■準備編

- WORK4：気持ちを伝えるシート
- WORK5：子世代座談会を開こう
- WORK6：アンケート調査をしよう

■実践編

- STEP1：集落営農組織の【人】について
- STEP2：集落営農組織の【農地】について
- STEP3：集落営農組織の【共同利用】について
- STEP4：集落営農組織の【経営状況】について
- STEP5：各世帯で集落営農組織の今後についての話し合い
- STEP6：集落営農組織10年プランを立てましょう

JA全農 事業承継　検索　クリック

事業承継ブックはこちらから

平成３０年４～６月期の配合飼料供給価格について

前期比で全国全畜種総平均トン当たり約 1100 円値上げ

【畜産生産部】

平成30年4～6月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、平成30年1～3月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約1100円値上げすることを決定しました。

＊なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。

飼料穀物

トウモロコシのシカゴ定期は、12月には350セン／ブッシェル前後で推移していましたが、生育期にある南米産地において乾燥が続き作柄悪化懸念が高まったこと、2月8日発表の米国農務省需給見通しで輸出需要が増加し、期末在庫が下方修正されたことなどから相場が堅調に推移し、現在は380セン／ブッシェル前後となっています。

今後は、南米産地の作柄と、米国産新穀の作付面積や作付け時の天候に左右される相場展開が見込まれます。

大豆粕

大豆粕のシカゴ定期は、12月には350ドル／トン前後でしたが、米国産大豆の中国向け輸出需要が旺盛であることなどから相場が堅調に推移し、さらに2月に入り乾燥による南米産大豆の作柄悪化懸念が高まったことにより高騰し、現在は410ドル／トン前後となっています。

国内大豆粕価格は、シカゴ定期の上昇により、値上がりが見込まれます。

海上運賃

米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には40ドル／トン台前半でしたが、中国向け大豆や石炭などの輸送需要が引き続き好調であることなどから、現在は45ドル／トン台となっています。

今後は、南米産大豆の輸送需要が本格化することから、海上運賃は堅調に推移するものと見込まれます。

外国為替

外国為替は、12月には112円を超える水準でしたが、米財務長官によるドル安を支持する発言や、2月に入り世界的に株価が急落し、リスク回避の動きが強まったことなどから円高が進み、現在は106円前後となっています。

今後も、米国の経済・産業政策の動向などを材料とした相場展開が続くと見込まれます。

◆◆◆

以上から、外国為替は円高となるものの、トウモロコシのシカゴ定期や大豆粕価格が値上がりしていることに加え、ビタミン類の価格急騰により飼料添加物が大幅に値上がりしていることなどから、平成30年4～6月期の配合飼料価格は前期に比べ値上げとなります。

青果情勢

（園芸部）

野菜

キャベツ・ハクサイなど春物出荷が本格化

概況

4月は、キャベツ・ハクサイ・ダイコン・ニンジンなどの春物の出荷が本格化してきます。

キャベツは、神奈川・千葉・愛知などが中心の出荷となります。定植遅れと低温で生育は遅れていましたが、気温上昇に伴い出荷ペースは回復基調です。出荷量は潤沢だった前年並みを見込みます。

ハクサイは、茨城などが中心になります。3月に入ってからの気温上昇と適度な降雨で生育は回復しており、平年並みの作柄になっています。出荷量は、前年をやや上回る見込みです。

レタスは、茨城・兵庫などが中心の出荷となります。総体の生育順調で安定した出荷が見込まれます。中旬以降は後続産地の出荷も始まります。出荷量は、前年並みを見込みます。

ダイコンは、千葉などの関東産地が中心の出荷となります。気温上昇と降雨により関東産地は平年作の見込み。肥大も順調となっています。出荷量は、前年並みを見込みます。

ニンジンは、千葉などの秋冬作から徳島などの春作に切り替わります。春作は種まき遅れがあったものの、現状生育は回復傾向。出荷量は、前年並みか前年をやや上回る見込みです。

トマトは、熊本や関東産地が中心の出荷となります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

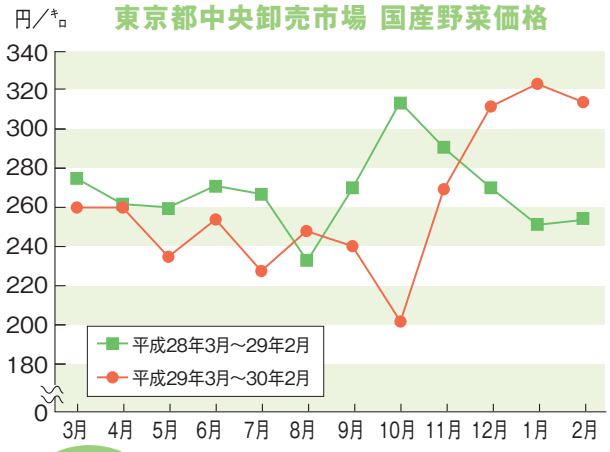
キュウリは、西南暖地および関東産地からの出荷となります。出荷量は、前年並みか前年をやや下回る見込みです。

バレイショは、北海道が切り上がり九州産地の春作が増量します。北海道の貯蔵物は小玉傾向。鹿児島は本島および離島からの出荷、長崎は中旬以降の出荷開始を見込みます。出荷量は、前年並みを見込みます。

タマネギは、北海道の貯蔵物と佐賀などが中心の出荷になります。出荷量は、前年を上回る見込みです。

店頭

前半は「新学期・新生活」をテーマとした催事、後半はゴールデンウィークを絡めた企画が展開されます。気温の上昇に伴って、サラダ商材、浅漬けなどの売り場も広がっていきます。



果実

引き続きイチゴと中晩かん類が中心

概況

4月の国産果実は端境期となるため、一年の中で最も入荷の少ない時期となります。そのため、オレンジなどの輸入果実が増える時期でもあります。

品ぞろえの中心は、イチゴ・中晩かん類で、その他メロン、小玉スイカなどが出回ります。

イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。3月中旬より曇天の影響で数量が伸び悩んでいましたが、4月に入ってからは出荷量が回復し、ピークとなる見込みです。出荷量はおおむね前年並みの見込みです。

清見は、愛媛が中心の出荷となります。出荷量は前年を下回る見込みです。不知火は、愛媛・熊本などが中心の出荷となります。愛媛は中旬でほぼ出荷終了となる見込みです。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

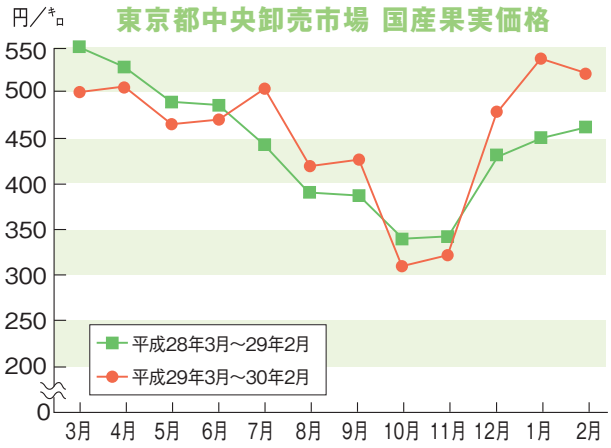
メロンは、低温の影響で生育は遅れており、熊本のアンデスの出そろいは 4月下旬となる見込みです。また、3月末からは茨城のオトメ、4月中旬からは熊本のクインシーの出荷も始まります。出荷量はおおむね前年並みを見込みます。

スイカ類は、低温の影響で熊本の大玉の生育は遅れていますが、中旬以降回復する見込みです。出荷量は前年並みかやや下回る見込みです。関東の小玉スイカは、中旬頃から出荷が本格化する予想です。出荷量は前年並みかやや下回る見込みです。

ビワは、長崎が中心の出荷となります。生育は遅れ気味で、4月中下旬が出荷ピークとなる見込みです。出荷量は概ね前年並みを見込みます。

店頭

果実売り場では、徐々に新しいアイテムが彩り豊かに増え出します。また、お客さまの消費行動も、春から夏の果実については、気温によって大きく変わりますので、店舗では、週末の気候をにらみ、店頭の売り場づくりが行われます。



主産県だより

3月はレタス、トマト・ミニトマト、アスパラガス、イチゴの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN
JA全農提供FMラジオ番組（TOKYO FM/JFN38局）
毎週土曜日13:00～13:55
東京・半蔵門のアースギャラリースタジオより生放送!

全農×ハギトモ水泳教室 ～笑顔プロジェクト～

東京都品川区で食育教室と併せ開催

食育教室で講義する萩原さん

全農は、スポーツを通じて食の楽しさや重要性を知ってもらうことを目的に、「笑顔プロジェクト」に取り組んでいるシドニーオリンピック元競泳日本代表の萩原智子さんを講師に招き、東京都品川区と共催で水泳教室を日野学園温水プールで開きました。品川区内在住の小学4～6年生を対象に、参加者は48人、保護者は60人となり、実技指導を行う水泳教室とスポーツと食を教える食育教室の2部構成で行いました。【広報部】

落合広報部長も子どもたちと一緒に水泳教室に参加

萩原さん直伝の神奈川県産「はるみ」の梅干しおむすびを頬張る参加親子

開校式で広報部の落合成年部長は「JA全農は、次世代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長されることを願いこの教室を開催しています。参加者の皆さんは萩原さんの教えをよく聞いて、けがのないよう元気よく水泳を楽しんでください」とあいさつしました。

水泳教室では、基本となる水中歩行、バタ足、息継ぎや蹴伸びの練習、ビート板を使った練習など実技の指導が行われました。

その後の食育教室では、萩原さんから選手時代に1日7食を食べていた話や練習前にはおむすびを食べて体づくりをしてきたことなど食に関する講義が行われたほか、実技に関する参加者からの質問にも丁寧に答えていました。最後に萩原さんが選手時代によく食べていた梅干しおむすびを保護者含め参加者全員で作りました。

また、より食・農業に関心を持ってもらうため、水泳教室の参加者を限定とした親子農業体験ツアーへ招待し、ツアーには萩原さんも参加します。

全農はこの教室を通じて、子どもの夢や成長を応援し、食・農業への関心を高めていきます。

5、8月に親子農業体験ツアー

全農は、今回の水泳教室参加者親子を5月の夏野菜・花卉植え付け、8月には収穫体験にご招待します。

JAタウン ショップ紹介　JAタウン | 検索 クリック

全農ブランド・エーコープのお店

全農 ライスジンジャーミルク1箱（125ml×18本）……2850円

JAタウンはこちらから

全農ブランド「お米のミルク」の新フレーバー「ライスジンジャーミルク」が、4月2日から新発売となりました。

しょうがの風味がお米とマッチし、より飲みやすく、よりおいしい仕上がりとなっています。また、お米のビタミンと称される「イノシトール」、ポリフェノールの一種「γ－オリザノール」が含まれる米胚芽油も添加しています。

何かと忙しい新年度、手軽にお米のエネルギーを補給できる「ライスジンジャーミルク」が、あなたの朝活をサポートします！ この機会にぜひ、ご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、4/20（金）まで、FAXでもご注文を承ります（ご自宅宛代金引換のみ）。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03－5218－2517までご送信ください。
商品代金のほか、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2018年（平成30年）4月9日発行（毎週月曜日発行）
第3235号　編集・発行人／広報部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。